

# 実験・教育棟が竣工

## 設計・佐藤総合計画、施工・清水JV

東北工大

東北工業大学が仙台市太白区八木山キャンパス内に

整備を進めていた「実験・教育棟」が完成し、9日に現地で竣工式が開かれた。

竣工式には約20人が出席し、神事では大学、工事関係者が玉串奉てんなどを行い完成を祝った。式典後、

設計を担当した佐藤総合計画と、施工者の清水建設・仙建工業・阿部和工務店JVの3社に樋口龍雄理事長から感謝状が授与された。

また、当日は施設の愛称を「Tech-Lab(てくらぼ)」に決定したこと

も発表された。

樋口理事長は「新型コロナウイルスや物価高騰、資

材不足などさまざまな社会情勢があつた中、工期内に施設を完成していただき設計者、施工者をはじめ工事関係者の

方々の努力に感謝している。完成したこの施設で将来を担う技術者が生まれていってほしい」と謝辞を述べた。

完成した実験・

教育棟は、仙台市太白区八木山香澄町35の1地内に位置する八木山キャンパス内の南東側



延べ6370・33平方メートル規模で建設。

学科ごとの棟に分かれて

分散していた材料構造系や

電気電子・情報通信・物理

系などの実験室を集約する

ほか、講義室を配置。内部

は「見て触れて学ぶ、建物

がまるごと生きた教材！」

として、構造ブレースや配管設備の見える化がされて

おり、学生が生で建築素材

に触れられる施設構造となつてている。また、4階ま

で階段状に吹き抜けとなる

場所を担当した清水建設・仙

建工業・阿部和工務店JV

の結城健一所長は「本校の

OBでもあり、今回のキャンパス整備への思いは人一

倍強かつた。設計者と工事

関係者一体となつて工事を

進め、無事に完成を迎える

ことが出来て嬉しく思う

クル」を設け、異なる学術

分野の実験に携わる学生同士の交流を促すほか、1階と2階の一部をガラス張り

にし、実験器具などを見せ

る外観が特徴だ。

整備に当たつては、現場

で4週8閉所の達成へ向け

CT技術の活用を進め、工

期短縮を実現。在学生へ講

義のカリキュラムとして現

場を公開し、生徒の学びの

場としても活用された。現

場を担当した清水建設・仙

建工業・阿部和工務店JV

の結城健一所長は「本校の

感謝状を受け取る清水建設の清

